

自 己 評 価 書

(平成 2 1 年度)

平成 2 2 年 3 月

鳴門教育大学附属中学校

目 次

| | | |
|-----|----------------|----|
| I | 学校の現況及び目的 | 1 |
| II | 評価項目ごとの自己評価 | 2 |
| | 1. 教育課程・学習指導 | 2 |
| | 2. 生徒指導 | 11 |
| | 3. 研修（資質向上の取組） | 20 |
| | 4. その他 | 25 |
| III | 自己評価根拠資料一覧 | 29 |

I 学校の現況及び目的

1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属中学校
- (2) 所在地 徳島市中吉野町1丁目31番地
- (3) 学級等の構成
1 学年 4 学級 2 学年 4 学級
3 学年 4 学級 計 12 学級
- (4) 児童数及び教員数(平成21年5月1日)
生徒数 472 人 教員数 22 人(正規教員)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属中学校校則第1条において「小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すとともに、鳴門教育大学（以下「本学」という。）における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする」と定めており、本校は義務教育を行う任務とともに、教員養成大学の附属中学校として、次のような使命をもった学校である。

- ①大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ②地域の教育諸課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等教育関係機関からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている中学校教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げ、めざす生徒像・教師像・学校像を明確に示している。

○知・徳・体の調和的人格の完成をめざし、自主・自立の精神、創造的能力、豊かな人間性をそなえ、社会の発展に寄与することのできる心身ともに健全な中学生を育成する。

めざす生徒像

- 目標を持ち、自主的、創造的に学ぶ生徒
- 強靱な意志と体を持ち、たくましく生き抜く生徒
- 優しく思いやりの心を持ち、人につくす生徒

めざす教師像

- 生徒を愛し、生徒とともに伸びる教師
- 強い使命感、鋭い教育観をもった教師
- 優れた指導力をもった教師

めざす学校像

- 創造的な知性を磨く学校
- 情熱的な意志を鍛える鍛錬学校
- 強健な身体を練る体育学校
- 敬和奉仕の精神に生きる人間学校

(3) 平成21年度重点目標

鳴門教育大学との連携を密にし、中期目標・中期計画・本年度計画の実現に努めながら、次の3本柱7項目から教育目標の具現化を図る。

- ①確かな学力の向上
- ②感性豊かな生徒の育成
- ③研究活動の充実

(4) 評価項目

- ①教育課程・学習指導
(確かな学力の向上)
 - 読書習慣確立への取組の状況
 - ・Fタイムの充実
 - ・「日本一周読書の旅」プロジェクトの実施
 - 各種検定への取組の状況
 - ・プラスワントタイムの活用
- ②生徒指導
(感性豊かな生徒の育成)
 - 学校行事、儀式、集会等の取組の状況
 - ・附中文化の継承と発展
 - LFT(ライブ附中タイム)の取組の状況
 - ・講師陣の開発と充実
 - 人権教育及び生徒指導の取組の状況
- ③研修(資質向上の取組)
(研究活動の充実)
 - 思考力・判断力・表現力を育む授業の取組の状況
 - ・各教科における言語活動の充実
 - ・新学習指導要領への移行措置の確実な実施
 - 研究活動拠点の取組の状況
 - ・教科等研究会の積極的な誘致
 - ・ホームページ等での情報発信力の強化

II 評価項目1 教育課程・学習指導

創造性豊かな教育課程の編成は学校経営の柱であり、学校運営上の基盤であるとの基本認識の下、教職員の共通理解を図りながら推進している。

(1) 観点ごとの分析

観点1-1 確かな学力の向上：読書習慣確立への取組ができているか。

[観点にかかる状況]

読書習慣の確立の取組として① F (附中) タイムの充実とともに、本年度新たに②「日本一周読書の旅」プロジェクトを立ち上げ、学校をあげて実践している。(添付資料1-1の①, ②)

「日本一周読書の旅」プロジェクト

文庫本の縦の長さを15cm、とし月ごとにどこまで進むか、JR路線を基準として測定する。単なる多読が究極の目的ではないが、外発的動機付けとして本プロジェクトを実施し、読書の習慣化を図ることを目的とする。

- ・生徒、教職員、保護者対象(473+33+950≠1500人)
- ・読書の内容は問わないが、週刊誌、漫画は含めないものとする。
- ・自己申告として学級ごとに冊数のみを月末に集計する。
- ・保護者の分も含めて生徒に申告させる。
- ・単行本も一冊15cmとして計算する。
- ・月別に集計し、徳島駅を出発駅としまし牟岐線に乗車する。
- ・四国をどのように回るか、その後のコースの取り方等は生徒会執行部で決定させる。
- ・途中経過をホームページ上で発表したりするなど読書の意欲付けを図る工夫をする。
- ・経過を図示化したものなどを学級掲示するなど、進捗状況を明らかにする。
また、学年通信等でも経過を広報する。

添付資料1-1-①「プロジェクト説明資料」

添付資料 1-1-② 「本校ホームページ」

UNIVERSITY OF EDUCATION

● 附属中学校へようこそいらっしゃいました。
ごゆっくりご覧下さい。

新型インフルエンザについて 11/30 インフルエンザ発生に伴う臨時休業について(第8報)

● 本校の教育目的や入試情報等本校の紹介を行っています。
Infomation
NEW! 校長室へようこそ

● NEW! 日本一周読書の旅 12月分をアップしました。
日本一周読書の旅

● 徳島県教育会の理科、技術・家庭科のページ等へ行くことが出来ます。
Subjects

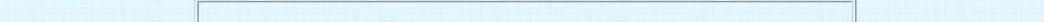
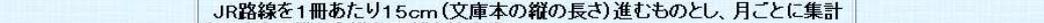
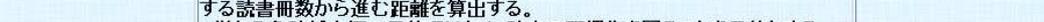
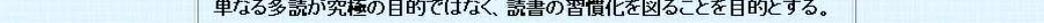


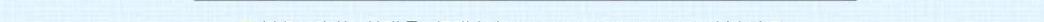
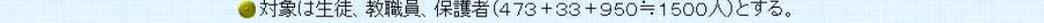
添付資料 1-1-③ 「ホームページ・日本一周読書の旅」

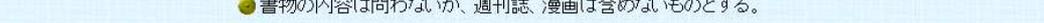






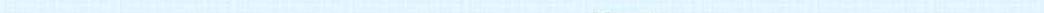










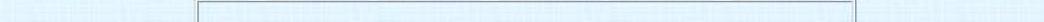
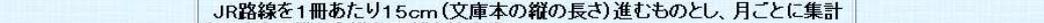
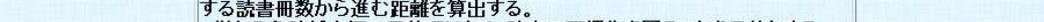
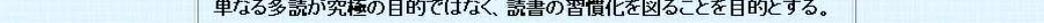


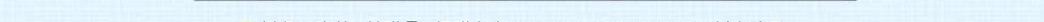
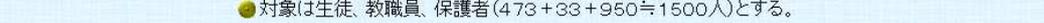



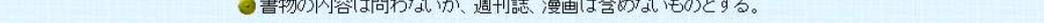






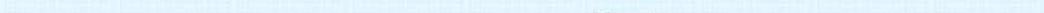










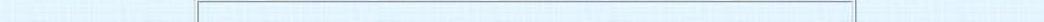
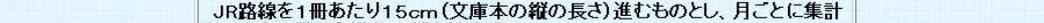
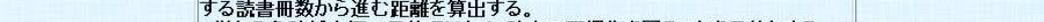
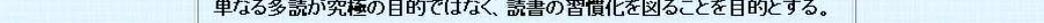


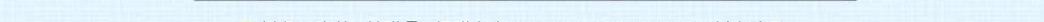
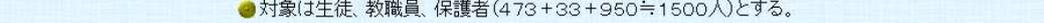



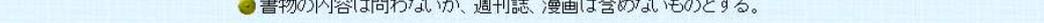






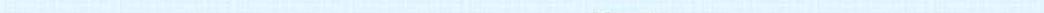






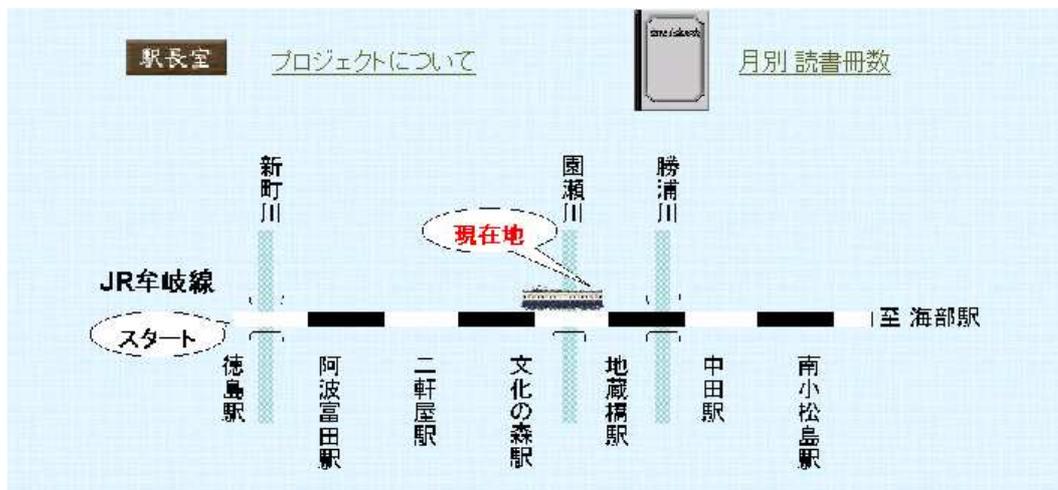






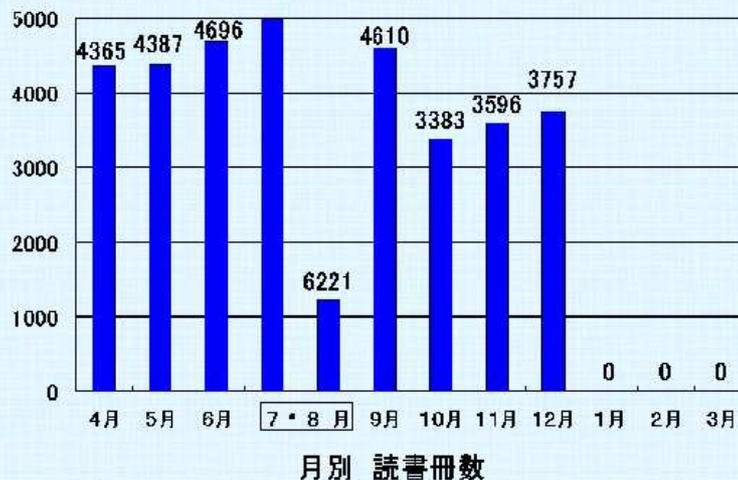
添付資料 1 - 1 - ④ 「同・現在地」



添付資料 1 - 1 - ⑤ 「同・月別冊数」

月別 読書冊数

- 12月の読書冊数 3757冊
- 今月進んだ距離 563m
- これまでに進んだ距離 5252m



【分析結果と根拠理由】

これまで、朝の10分間読書に取り組んできたが、本年度より新しく「日本一周読書の旅」プロジェクトを立ち上げ、読書の習慣化に向けた取組を強化した。これは、昨年度から取り組んでいる本校の研究副主題「言語活動の充実」とも対応するものである。

また、本年度は、昨年度からの課題である本校ホームページの活用も軌道に乗りつつある。

観点1-2 確かな学力の向上：各種検定への取組ができているか。

【観点に係る状況】

教育課程の編成に当たっては、学習指導要領に標準時数として明確に示されている。また、本年度から新学習指導要領への移行が始まっており、具体的教育課程編成に当たっては、本校の特色を生かし大学との連携を視野に編成した。

また、日課表については、引き続き2校時と3校時の間の休憩時間を15分間とり、購買の利用など生徒のゆとりある生活リズムへ対応したものである。

確かな学力向上策の一環として、本年度週時程の中にプラス1（ワン）タイムと名付けて、各種検定等に挑戦するための自由裁量の時間を設定し、週29単位とした。

その結果、各教科等の積極的な取組により次のような成果を挙げることができた。（資料1-2-①～⑨平成22年2月15日現在）

資料1-2-① 国語科

国語科作文コンクール等出品結果

①「食のセミナー」並びに第34回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

作文部門 徳島県農業協同組合中央会長賞 1年 1名
優秀賞 3年 3名

②JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2009

青年海外協力会賞 2年 …… 『お接待の心を持って』
3年 …… 「チョコレートから広がる国際協力」

③平成21年度JA共済全国小・中学生「書道・交通安全ポスター」徳島県コンクール

条幅 入選 2年 ・1名
半紙 入選 3年 ・2名

④第47回中学生作文コンクール 学校賞

都道府県別生命保険文化センター賞 2等 1年 ……
3等 2年 ……
佳作 1年, 2, 3年 各1名

⑤第55回青少年読書感想文全国コンクール徳島県審査

特選 1年 ・2名
特選 2年 ・1名
入選 3年 ・2名

⑥ 日本語検定

| | 受験者 | 合格者 | 合格率 | 学級閉鎖による欠席 |
|--------|-----|-----|---------|-----------|
| 2級 社会人 | 3名 | 1名 | 33% | |
| 3級 大学生 | 6名 | 6名 | 100% | 1名 |
| 4級 高校生 | 7名 | 7名 | 100% | 5名 |
| 5級 中学生 | 13名 | 11名 | 84% | 4名 |
| 準5級 | | 2名 | (100%) | |
| 計 | 29名 | 25名 | 86%(93) | 11名 |

※ 選択国語（2年）による学校新聞発行 平成21年12月21日の徳島新聞

| | | | | | |
|-------------------------|----|------------------------|------|------|---------|
| ⑦書道 | 3年 | J A 共済書道交通安全徳島県コンクール書道 | 半紙の部 | 入選 | 2名 |
| | 2年 | J A 共済書道交通安全徳島県コンクール書道 | 条幅の部 | 入選 | 1名 |
| ⑧作文 | 1年 | 第59回全国小・中学校作文コンクール中央審査 | | 入選 | 1名 |
| ⑨第5回徳島県こども美術展 | | 書写の部 | | 優秀賞 | 1年・・・1名 |
| | | | | 優秀賞 | 2年・・・2名 |
| | | | | 入選 | 3年・・・1名 |
| ⑩第59回全国小中学校作文コンクール徳島県審査 | | | | 最優秀賞 | 1年 |
| ⑪徳島市・佐那河内村中学校人権作文コンクール | | | | 最優秀賞 | 3年 |
| | | | | 特選 | 3年・・・2名 |
| ⑫人権に関する児童生徒の作品意見発表 | | | | 最優秀賞 | 3年 |
| ⑬第47回中学生作文コンクール | | 都道府県別生命保険文化センター賞 | | | |
| | | | | 2等 | 1年・・・1名 |
| | | | | 3等 | 2年・・・1名 |
| | | | | 佳作 | 1年・・・1名 |
| | | | | | 2年・・・1名 |
| | | | | | 3年・・・1名 |

資料1-2-② 数学科

国際算数・数学能力検定受検状況

| | 7月 | | 11月 | |
|-----|-----|-----|-----|-----|
| | 受検者 | 合格者 | 受検者 | 合格者 |
| 5級 | 0 | 0 | 27 | 27 |
| 4級 | 13 | 11 | 2 | 2 |
| 3級 | 21 | 20 | 8 | 7 |
| 準2級 | 2 | 1 | 5 | 2 |

資料1-2-③ 社会科

- ①社会科選賞 「上八万の遺跡と歴史」 入選・・・2年
「死刑廃止と死刑存置」 入選・・・1年
- ②年金作品コンクール 日本国民年金協会賞・・・3年
- ③中学生税についての作文 優秀賞・・・・・・・・・・3年
入賞・・・・・・・・・・3名
- ④第17回地図作品展中学高校生の部 優秀賞・・・・・・・・・・1年

資料1-2-④ 理科

第66回徳島県科学作品展覧会 平成21年11月1日

- ①科学作品展 第1部（工夫創作品） 入賞 1年・・・「反射式プロジェクター」

②科学作品展 第2部 (研究記録)

特賞 1年・・・「天気のことわざは本当なのか」

特賞 1年・・・「殺ボウフラ植物の探索」

特賞 1年・・・「楕円形についての研究」

入賞 1年・・・14名

③徳島市・名東郡中学校科学作品展 特賞 1年・・・4名

入賞 1年・・・14名

資料1-2-⑤ 英語科

①第63回徳島市・名東郡英語弁論大会 優秀賞・・・3年

②高円宮杯第61回全国中学校英語弁論大会徳島県予選 第1位・・・3年

同上 高円宮杯第61回全日本中学校英語弁論大会 優秀賞・・・3年

資料1-2-⑥ 音楽科

○吹奏楽 第57回全日本吹奏楽コンクール徳島県大会中学校A部門・・・銀賞

○音楽 第45回徳島県中学校音楽創作コンクール郡市予選・・・① 入選

○音楽 第45回徳島県中学校音楽創作コンクール郡市予選・・・② 入選

資料1-2-⑦ 美術科

①J A 共済交通安全ポスター徳島県コンクール NHK徳島放送局長賞・特選1席・1年

特選・・・1年・・・1名

入選・・・1年・・・2名

②ライオンズクラブ国際協会第22回国際平和ポスターコンテスト 最優秀賞・・・1年

会長賞・・・1年

優秀賞・・・1年

入選・・・1年・・・2名

佳作・・・2・3年各1名

③第5回徳島県こども美術展 絵画の部 準特選・・・1年

入選・・・2年・・・3名

入選・・・3年・・・2名

④「ぼくのわたしのふるさと絵画」コンクール カンガルー賞3年

ふるさと賞・2年・・・2名

⑤クロード・モネの世界 睡蓮スケッチコンテスト 睡蓮賞・・・2年

⑥徳島県中学校美術作品展 優秀賞・・・3年・・・2名

2年・・・6名

1年・・・1名

⑦第24回徳島市水と緑のフェスティバル図画コンクール 準特選・・・3年・・・2名

| | |
|----|---------|
| 入選 | 1年・・・4名 |
| | 2年・・・2名 |
| | 3年・・・2名 |

資料1-2-⑧ 保健体育科

- ①ソフトボール 3年 優秀選手賞・・・・・・・・・・2名
徳島県中学校総合体育大会・・・・・・・・準優勝
第47回四国中学校総合体育大会・・第3位
- ②陸上 徳島市中学校陸上競技大会 100mH・・第6位・・2年
男子走高跳・・第5位・・2年
女子走幅跳・・第3位・・3年
女子走高跳・・第1位・・3年
- ③水泳 第50回県中学生学年別選手権水泳競技大会
男子100m背泳ぎ・・第3位・・3年
女子100m背泳ぎ・・第2位・・3年
女子100mバタフライ・・第2位・・3年
女子200m個人メドレー・・第3位・・3年
女子400m自由形・・第3位・・2年
女子100m背泳ぎ・・第3位・・2年
女子200m個人メドレー・・第3位・・2年
- ④第29回徳島市中学校新人戦ソフトボール大会「附属中・城東中女子ソフトボール部」・・・・優勝
- ⑤3年 第63回徳島県中学校郡市対抗陸上競技大会 女子走高跳・・・・第2位
- ⑥第49回徳島県中学校新人ソフトボール大会・・・・・・・・・・優勝
- ⑦徳島市卓球優秀選手賞・・・・・・・・優秀選手賞・・3年
- ⑧ソフトテニス女子 平成20年度ルセントカップソフトテニス蔵本大会・・・・団体戦B・・第3位

資料1-2-⑨ 技術・家庭科

- ①家庭 2年 第10回全国中学生創造ものづくり教育フェア・・・・優秀賞
- ②家庭 2年 「あなたのためのおべんとう」コンクール徳島県予選二次審査
- ③第10回めざせ！「木工の技チャンピオン」中国・四国大会 くぎ打ち部門大賞・2年
優秀賞・・・・・・・・・・3年
- ④第12回技術教育創造の世界「エネルギー利用技術作品コンテスト中学生団体の部」「ありがとうポスト」日本産業教育学会 努力賞1年
「水力発電洗浄ブラシ」 入選 2年
入選 3年2グループ
- ⑤創造アイデアロボットコンテスト全国中学生大会徳島県予選 校業内部門「附四鳥」優勝・・2年

資料 1 - 2 - ⑩ 進路状況 (平成 22 年 2 月 15 日現在)

①前期試験合格率 41.34%

②国立・私立関係

- ・灘 (兵庫県) 1 名
- ・学芸大附属 (東京都) . 1 名
- ・愛光 (愛媛県) 2 名
- ・白陵 (岡山県) 1 名
- ・洛南 (京都府) 4 名
- ・朱雀 (京都府) 1 名
- ・誠陵 (香川県) 1 名
- ・大手前 (香川県) 1 名
- ・近大高専 (三重県) 1 名
- ・文理 (徳島県) 46 名

【分析結果と根拠理由】

読書活動への取組については、新プロジェクトの効果により、生徒会ともタイアップし、本校の長期的な取組のスタートがきれた。読書量の推移については、随時ホームページにもアップし啓発と読書意欲の喚起に努めている。

「各種検定への挑戦」目標においても、これまで国語科、数学科、社会科等の個別の取り組みから学校組織として取組にレベルアップした。

週時程を 29 単位で実施し、プラスワンの時間を生み出し、さらなる学力向上に積極的に取り組んでいる。

前期合格率については、通常 30% 前後であり、本校生徒の基礎学力の定着状況については概ね満足できる状況にある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 全国学力・学習状況調査からみて、国・公・私立の平均正答率、国立のみの平均正答率を引き続き大幅に上回っている。
- ・ 本校入試への出願数はこれまでの数値を維持している。
- ・ 昨年に引き続き、全教科に大学教員の講師と文部科学省から教科調査官 1 名を指導助言者に招聘でき、大学と附属の本来の在り方を示すことができた。
- ・ 「日本一周読書の旅」プロジェクトについては、その経過をホームページにアップするなど、積極的な取組ができ成果が上がっている。また、生徒会とのタイアップを視野においており、本校の新しい伝統となることが期待できる。
- ・ 前期試験合格率が 41.34% であり、本校生徒は高校定員の 30% が上限となっている普通科への受験がほとんどであることから、引き続き高い数値で推移している。

- ・ 大学との連携を密にし、研究発表会等公開の場での指導助言の機会を設けるなど、本校の特色を社会全体へ強くアピール出来ている。

【改善を要する点】

- ・ 大学の担当理事より、授業日確保の観点から、大学教員を講師として附属に派遣しにくく、研究発表会を週休日に開催するよう要請されているが、中学校の場合、週休日は全県的に体育的行事の開催時期にあたる他、部活動指導が多いため、参会者の利便を考慮すると平日開催しかできないのが実情であり、引き続き検討を要する。
- ・ 大学教員の研究会講師派遣については、全教科派遣が望ましいが、個々の教員の実情を勘案しつつ、大学附属の特色を出す上でも教科を絞って依頼するなどの改善が必要。
- ・ 研究発表会の週休日開催についても、その実現性について引き続き検討していく。
- ・ 次年度より徳島県の高校入試制度が改革されるに伴い、本校の進路指導について事前の対策に万全を期す必要がある。
- ・ 総合的な学習の時間については、本校独自のカリキュラムが確立されているが、新学習指導要領下での時数が削減に対応して、カリキュラムを再開発する必要がある。その際、次年度後半から大学との共同研究に入る「予防教育」の研究開発との連動を視野に置くことが重要である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

| | |
|---------|------------------------|
| 自己評価の基準 | A 十分達成されている |
| | B 達成されている |
| | C 取り組まれているが、成果が十分でない |
| | D 取組が不十分である |
| | * 評価項目ごとの自己評価の基準は、以下同じ |

評価項目2 生徒指導

心豊かで創造性に満ち、心身共に健全な生徒を育生していくためには、分かる授業の創造とともに、特色ある学校文化の土壌に立ち、四季折々にメリハリのある学校行事を展開することが重要との経営理念に立って望んでいる。

(1) 観点の分析

観点2-1 感性豊かな生徒の育成：学校行事、儀式、集会等の取組ができているか。

【観点に係る状況】

本年度は、週時程を改定し月曜日にプラスワнтаイムとして設定し、29単位で組んだ。朝の10分間の帯タイムは一斉読書の時間として引き続き実施した。

プラスワнтаイムは、その3分の1程度をLFT（ライブ附中タイム）に当てるとともに、残りの時間を「各種検定等への挑戦」時間とし（参考資料1-2-①）、さらには全校集会（表彰伝達）等にあて、弾力的に運用し、附属中学校の特色ある時間となっている。

本校伝統の「揮毫式」については、昨年度より保護者の自由参観日として案内し、本年度はこれまでの歴史的経緯をプレゼンテーションで紹介するなど、新しい要素を加味しながら実施した。（資料2-1-①）

また、従来の「かがり火のつどい」が学校周辺への環境配慮への観点から実施出来なくなっことを受け、昨年度から卒業式前日に「灯の儀」を新たに立ち上げ、附属中学校の新しい伝統として定着させるべく改善を加えながら実施している。（資料2-1-②）

資料2-1-① 揮毫式

雄名録・雄志録揮毫式（「附属中学校四十周年誌より」）

吉野川の水、太平洋の水、そして眉山の水と、凝って墨汁となったのを用いて、一年の志を揮毫し、各自の氏名を永久に残す式である。

昭和26年1月1日（26年元旦）に新年互礼会が持たれ、その日より、この雄名録・雄志録の歴史が始まったのである。山、川、海の3つの水を混ぜ合わせたものを使用する所以は、自らの手で筆を持ち、氏名を揮毫した生徒たちが、世界に羽ばたく大きな人間に育ててほしいとの祈りを込めてとのことである。

そして、45年度より新年1月8日、3学期始業式の日、雄名録・雄志録揮毫式が持たれるよ



うになった。この日ばかりは、前年までの雄名録掛け軸をぐるりに配した体育館中央に置かれた机に、筆を持って向かう生徒らの顔は、一段と引き締まって大人びて見え、目は希望に燃えていっそう輝くのである。

校長の揮毫を囲み、全教官・生徒五百有余の魂は、清浄に、健康に、重厚に伸びていく。そして、この輝かしい一年のはじめの新しい心で、附属中学校の伝統は、ますます栄え、受け継がれていくのである。

雄志録は、雄名録揮毫と並行させ、各学級で、担任の揮毫を中央に、生徒四十数名がまわりを囲み、クラスの連帯とそれぞれの飛躍しようとの志を胸に、思い思いの言葉を揮毫するのである。

◎ 目的

新年を迎え、新年のすがすがしい気持ちで名を記すことにより、新しい年に向けての新たな出発の決意を表明する。綿々と続いてきた附属中学校の歴史の中に自分の名を記すことにより、伝統を受け継ぎ、引き継ぐという歴史の中における自分の位置を確認する。

雄志録の揮毫を通して、新しい年に向かう希望や抱負やモットーや好きな言葉を、文字にして表現することにより、自分の目標や課題を明確化し、新しい年に向けての意欲的なスタートをきる。



開校当時の屋外での揮毫式の様子



そして、
私たちも
附属中学校の歴史に
名前を刻む

かがり火のつどいについて

1 由来

伝統のもと、3年間を過ごした懐かしの母校を去るに臨み、在校生に伝統のいよいよ盛んならんことを祈念し、在校生も先輩に恥じぬ附中生となるために先輩の行いをしのび、伝統を受け継ぐ式。過去から未来にわたり永遠に燃え続ける附中の象徴たる火は、校庭の営火にともされ、炎々たる^{ほのお}焰の天をこがす夕闇の中、校長は卒業生への激励の言葉をおくり、卒業生は後輩へ附中の^{いやさか}弥栄を祈りつつバトンを渡す。「別れのうた」は哀愁を帯びて営火を囲む卒業生に贈られ、「蛍の光」はなつかしの母校をあとにしていく卒業生の両肩へふりそそぐ。聖なる一瞬であり、感激のひとコマである。

2 目的

かがり火とは「夜中の警備や^{ぎょりょう}漁 獵の際、照明のためにたく火」と記されている。かがり火の火は附属中学校伝統の火である。40有余年にわたって先輩から引き継がれてきた火は、本年度卒業生の心の中に炎々と燃えているはずである。受け継ぐことの厳しさも同時に実感したであろう。単なる順送りのなものでなく、一步前進した形での継承でなければならないからである。延々と受け継がれてきた伝統の火をいつまでも自らの力で燃やし続けなければならない。いよいよ明日を最後に附属中学校を巣立つ三年生が、伝統の火を後輩にバトンタッチし、後輩は伝統の火をますます大きく、立派にしていくのだという決意を固める。



「灯（ともしび）の儀」

1 由来

「灯の儀」は「かがり火のつどい」の伝統を引き継ぐものである。伝統のもと一年を暮らした三年生は蛍雪の功空しからず雄図（ゆず）をいだいてなつかしの母校を去るに臨み、在校生に伝統のいよいよ盛んならんことを祈念し、在校生も先輩に恥じぬ附中生となるために先輩の行いをしのび伝統を受け継ぐ式。過去から未来にわたり永遠に燃え続ける附中の象徴たる火は、校庭の営火にともされ、炎々たる焰の天をこがす夕闇の中校長は卒業生への激励の言葉をおくり、卒業生は後輩へ附中のいや栄を祈りつつバトンを渡す。「別れのうた」は哀愁を帯びて営火を囲む卒業生に贈られ、「蛍の光」はなつかしの母校をあとにしていく卒業生の両肩へふりそそぐ。聖なる一瞬であり、感激のひとコマである。

2 目的

かがり火とは「夜中の警備や漁 獵の際照明のためにたく火」と記されている。かがり火の火は附中伝統の火である。「灯（ともしび）」はその伝統を引き継ぐものである。40有余年にわたって先輩から引き継がれてきた火は、本年度卒業生の心の中に炎々と燃えているはずである。受け継ぐことの厳しさも同時に実感したであろう。単なる順送りのなものでなく、一步前進した形での継承でなければならないからである。

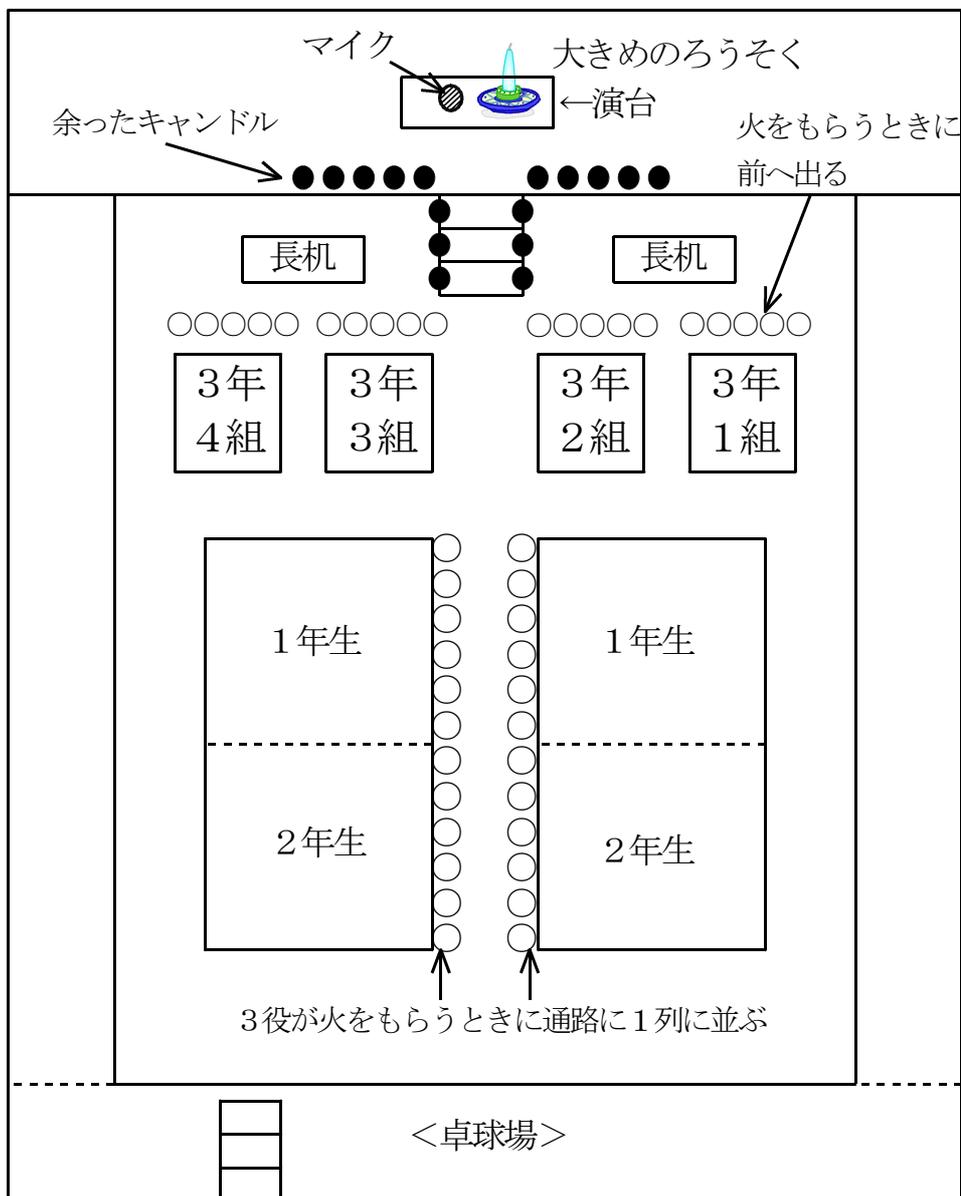
延々と受け継がれてきた伝統の火をいつまでも自らの力で燃やし続けなければならない。

いよいよ明日を最後に附中を巣立つ三年生が、伝統の火を後輩にバトンタッチし、後輩は伝統の火をますます大きく、立派にしていくのだという決意を固める。

3 日 時

平成21年3月12日（木）

【 配 置 】 改訂版



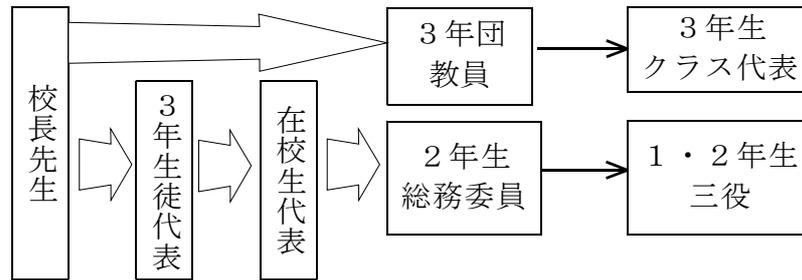
※ 3年生の1列目は火をもらう代表者で、イスの上にもろうそくを準備しておきます。3年担任から火をもらうときは1歩前を出るようにさせ、火がついた生徒から後ろを向くように指示をお願いします。その他の生徒は座れるように並んで入場させてください。入退場は卒業式と同じ経路です。

※ 長机は3年生が退場時に持っている火を置くための場所として使います。退場時にろうそくを置いて帰るように指示をお願いします。

※ 在校生は三役が中央の列に集まるよう座ります。通路側のイスは三役が移動させま

す。

【 点火順 】改訂版



参考資料 2-1 ③ 特色ある取組「模擬県議会」（総合的な学習の時間）

中学校 大人顔負け、議論白熱！附中の模擬県議会！（徳島新聞記事を参考とした）

12月11日（金）に、附属中学校体育館において、新型インフルエンザの影響で延期されていた模擬県議会を開催した。3年間学んできた「総合的な学習時間」の総まとめとして毎年この時期に実施しているものである。

当日、徳島新聞社より取材を受け、12月12日、15日の両日に渡り紙面で紹介された。15日の夕刊で紹介された記事の一部を引用させていただき、本校における模擬県議会を紹介する。



「3年生全員が与野党に分かれ、6つの委員会ごとに、与党議員が『下水道整備の促進』『観光地を巡る循環バスの運営』など、徳島県に必要な政策を提言。これらの妥当性について活発に議論した。

『そんな多額の予算はどこから出るんですか』『費用に見合った効果は期待できますか』と厳しく追及する野党側。両者のやりとりは行政刷新会議の事業仕分けを思い起こさせ、中学生が財政に厳しい目を向けていることには驚かされた。」

実際、全ての学級がよく考え、教師が途中で区切り、評決をさせなければいくらかでも議論は続きそうなほどであった。3年間の集大成として中身の濃い模擬県議会になったと思う。

【分析結果と根拠理由】

学校行事については、不易と流行を視野に見直しを行っている。しかしながら、伝統は一朝一夕には形作られるものではなく、時の学校が主体性を持ちつつも、慎重に検討を重ね、必要に応じて保護者会や教職員のOBの方々にも意見を求めながら実行していく必要がある。

観点 2-2 感性豊かな生徒の育成：LFT（ライブ附中タイム）の取組ができているか。

【観点に係る状況】

本校が平成16年度から実施している特色ある取組の一つである。本年度は、特に講師陣の拡充を図る観点から、大学教員のみならず多種多様な職種の講師陣の開拓を目標として取り組んだ。

その結果、本校OBの元徳島県教育委員会教育長、佐藤勉氏の快諾を得る他、徳島県法務局の出前講座を活用した。この出前講座は県内で本校が最初の取組ということで、法務局担当者の意気込みも熱いものがあり生徒たちにもずいぶん好評であった。

また、設定日を昨年の木曜日から、全校集会の性格を生かすため、週の最初の月曜日に変更して実施した。（資料2-2-①、資料2-2-②）

資料2-2-① 「平成21年度LFT（ライブ附中タイム）実施要領」

平成21年度 LFT（ライブ附中タイム「生き方を考える時間」）実施要領

鳴門教育大学附属中学校

- 実施形態 総合的な時間を活用し、オープスタイル（全校集会形式）とする。
- 対象 生徒約480名、職員22名～30名。総計500名程度。
- 実施時数等 年間、約30時間を月曜日の6校時（14：30～15：20）に設定する。（全体集会、各種検定試験時数含む）
- 講師 鳴門教育大学関係者、その他の大学関係者、企業関係者、保護者等、多種多様な職種・キャリアの方に依頼する。
- 内容 特定の宗教・政党等に係るもの以外で、教育基本法等の精神に反しない範囲内であれば内容は一切問わない。
政治、経済、哲学等、学問的に高度なものからエンターテインメントな話題までどんなジャンルや内容でも構わない。
- 場所 鳴門教育大学附属中学校、体育館。
- 月日 本校が指定する月日。
第一回LFT：平成21年6月29日（月）13:30～14:20
- 備考 資料等の印刷、配布は本校で行います。その他、詳細は本校職員にお問い合わせください。（電話088-622-3852 担当：大泉）

徳島市中吉野町1-31
鳴門教育大学附属中学校
TEL 088-622-3852
ファクシミリ 088-652-0122

（平成21年度LFT実施要領）

資料 2 - 2 - ② 「平成 21 年度 LFT 実施状況」

平成 21 年度 LFT (ライブ附中タイム) 実施実績

| 月日 | 講師 | 担当講座 | 演 題 |
|--------|-------|---------|--------------------------------|
| 6/29 | 米延 仁志 | 技術・情報講師 | 森と文明 |
| 7/6 | 八幡ゆかり | 特別支援教育 | 生きるということ |
| 9/7 | 山森 直人 | 英語 | 英語とのつきあい方 |
| 10/5 | 木原 資裕 | 保険体育 | 今なぜ、武道か |
| 10/26 | 黒川 衣代 | 家庭 | 忌引により中止 |
| 11/9 | 山田 啓明 | 音楽 | 新型インフルエンザ関連で延期→2 / 15 |
| 11/16 | 工藤 慎一 | 理科 | 科学者という職業：ある昆虫学者の日常 |
| 11/30 | 佐藤 勉 | 四国大学 | 私と附属中学校，そして君たちへ |
| 12/14 | 阪根 健二 | 臨床心理士 | ネット社会でどう生きるかーインターネット，携帯の落とし穴って |
| 1 / 18 | 藤澤 公明 | 徳島地方務局 | ～「約束」について～ |
| 1 / 25 | 太田 直也 | 現代教育課題 | 世界のトイレから考える |
| 2/8 | 齋藤 昇 | 数学 | 頭のよくなる方法ー創造性能力を伸ばすー |
| 2/15 | 山田 啓明 | 音楽 | ミニコンサート |

 は外部講師

(平成 21 年度 LFT 実施状況)

【分析結果と根拠理由】

本校の特色ある取組の一環として、大学との連携の中で要領を定め実施しており、本年度からは、新たに鳴門教育大学以外の外部講師も 2 例実施した。生徒、保護者からの評価も非常に高く、教育課程を工夫しながら存続していきたい。

観点2-3 感性豊かな生徒の育成：人権教育及び生徒指導の取組ができているか。

【観点に係る状況】

① 不登校解消への取組

本校では、昨年度、学校関係者評価委員から不登校問題について、よく取り組まれているものの、まだ完全解決には至っておらず、引き続き一層の努力が必要との指摘を受けている。本校では、学校カウンセラーや養護教諭、各関係機関等との連携を強化しながら、生徒指導委員会等で不登校状態の生徒の把握とその改善に学校を挙げて取り組んできた。その結果途中復帰した生徒もあるが、復帰したものの時間の経過とともに再度不登校状態に戻る等の事態を繰り返している現状もある。

その中で、保護者の理解と協力のもと、徳島市の不応児児童生徒の支援施設に通うことのできた生徒は、県外の高校進学を果たすことができた事例もある。

本校の不登校対策への基本姿勢は、生徒や保護者の気持ちに寄り添いながら、常に接触を保ちつつ、一週間に一度は家庭訪問をするなどの関わりを続け、学校復帰を最終目標としている。

しかしながら、新たに不登校状態になる生徒も出るなど、その対応に腐心しているのが現状であり、予防対策と事後対処の方法について、最新の知見や情報収集をするなど努力を続けているが、満足な結果を得ることが出来ずにいる。

本校独自に原因等を探り学校側で原因を除去できる明確な「いじめ」等の問題は生徒、保護者双方からの言及もなく、学校側の視点でも明確な要因が見あたらないため、その解消が長引く要因にもなっている。

一つの朗報としては、来年度より鳴門教育大学で様々な生徒指導上の「予防教育」の先駆的研究が国の指定を受け、予算確保もできたとのことである。附属小・中学校も実際の授業方法、内容、展開、プログラム開発等に協力することとしており、科学的アプローチの手法が少しでも明らかになることを期待している。

資料2-3-① 1月までの不登校状態生徒の状況

| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|----|----|----|----|---|
| 男子 | | 0 | | |
| 女子 | 0 | | | |
| 計 | | | | 9 |

30日に満たないが不登校の兆候が見られる生徒含む。このうち2名が解消又は学校外の施設へ通級。

○不登校の状態の現状及び原因の一つと思われる要素等

- ・ 進学前に抱いていたイメージと違って、学級内で心が落ち着かない。(小学校時代は少人数単学級の学校)
- ・ 親友の突然の転校での精神的打撃から、家を出ても学校の近くで引き返す。(部活動が同じで支え合ってきた関係)・改善の可能性が大
- ・ 保護者との人間関係の精神的ねじれ。親子の意思疎通もぎくしゃくしてコミュニケーションがうまくとれていない。
- ・ 小学校時代から不登校状態が継続。 ・友人関係が構築しにくい。

② 人権教育への取組

週1時間の道徳の時間の時数確保はもとより、内容の充実に努めるとともに、すべての教育活動の中に位置づけ推進している。道徳の時間は、各学年共通の時間帯に設定し、学年部会としての課題や研修成果がよりよく反映されるよう工夫して実施している。

また、総合的な学習時間では、様々な角度から道徳教育、人権教育の視点を盛り込み、心豊かな生徒の育成に努めている。

また、従来より1学年に集団宿泊活動、2学年に修学旅行、3学年に校外学習を組み込むなど、授業以外の特別活動の在り方も工夫しながら、人権に関する基本的知識理解はもとより、科学的思考力・判断力・表現力の育成に努め、様々な体験活動を通して人権感覚の醸成に努めている。

【分析結果と根拠理由】

道徳の時間は学習指導要領により、年間35単位を標準時数として定められている。また、道徳教育は全ての教育活動の中に位置づけ推進するものとされており、各教科はもとより、総合的な学習の時間や特別活動等のカリキュラムの中で、学年集団を核としつつ、学校全体としての組織的に推進している。

不登校の状態とは、概ね30日以上欠席があり、けがや病気等を除いたものであるが、注意を要する生徒として3日以上連続して欠席し、欠席の原因が明確でないものについて、特に注意深く見守り、保護者との面接を重視しながら初期対応に心がけている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 各種行事については、本校の伝統の重みを自覚しつつ、職員間にPDCAサイクルの意識が確立しており、必要に応じて部分的なスクラップ&ビルドが実施できている。
- ・ 生徒は、学習態度、生活態度共に落ち着きがあり、学年部会の充実及び学年間の調整もスムーズに進行し、深刻ないじめ等大きな生徒指導上の問題はなかった。
- ・ 学校カウンセラーと養護教諭との連携がスムーズにいており、教職員間との情報交換もきめ細かに実施できている。
- ・ LFTの評価が非常に高く、生徒指導、人権教育、特別活動等の観点からも本校の特色ある取組として継続していく価値がある。

【改善を要する点】

- ・ 不登校状態の生徒の解消には至っておらず、心に寄り添うきめ細かな継続的取組と共に、対処的な指導にとどまらず、次年度から大学主導で始まる「予防教育」の科学研究にも共同参画しながら、その手法研究に取り組みたい。
- ・ LFTの事業が生徒・保護者にも評価が高く、新学習指導要領実施に向けて、コマ数に限界があり、その位置づけを工夫する必要がある。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

評価項目3 研修（資質向上の取組）

本校では、保護者会の強力な支援もあり教員が原則、年1回の県外研修を実施するなど、総合的な指導力の向上を目指した研修に取り組んでいる。

観点3-1 研究活動の充実：思考力・判断力・表現力を育む授業の取組ができているか。

【観点に係る状況】

新学習指導要領の移行期にあたる本年から、研究主題を「思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業の創造-言語活動の充実を通して（1年次）」としてスタートした。

学習指導要領改訂のポイントは次のとおり示されている。

- ・改正教育基本法等を踏まえた学習指導要領改訂
- ・「生きる力」という理念の共有
- ・基礎的・基本的な知識・技能の習得
- ・思考力・判断力・表現力等の育成
- ・確かな学力を確立するために必要な時間の確保
- ・学習意欲の向上や学習習慣の確立
- ・豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実

本年度より、一部移行措置が始まり、数学・理科の指定教科の他、総則やその他の教科においても学校の判断で新学習指導要領によることができることになっており、順次可能なものから前倒しして取り組んでいる。

（資料3-1-① 「文部科学省webページより」）

各中学校長様

新学習指導要領の先行実施に向けた準備チェックリスト

いよいよ4月から新学習指導要領の移行期間に入ります。各中学校ではすでに準備を進めておられることと思いますが、本年度中に貴校の先生方お一人お一人に最終チェックをしていただき、次年度に向けて万全の体制を整えてくださるようお願いいたします。

以下のようなチェックリストを作成しましたので御活用ください。

（平成21年2月全日本中学校長会・文部科学省）

【共通事項】

- 新学習指導要領を読んだ。
- 新学習指導要領の解説を読んだ。
- 平成21年度からの移行期間中の各教科等における授業時数の増減を理解している。
- 平成21年度から全面実施される総則、道徳、総合的な学習の時間、特別活動の変更点を理解している。

【各教科別事項】

- 平成21年度から数学、理科で追加される指導内容を理解し、教育課程の編成で具体化している。
- 平成21年度に数学、理科で追加される指導内容について、現在使用している教科書に準拠した「補助教材」（冊子）が本年3月中に全中学校に配付されることを知っている。
- 平成21年度に理科で新たに必要になる実験器具等、教材の準備を進めている。
- 移行期間中の音楽（平成21年度から）、社会（平成22年度から）、国語（平成23年度から）のそれぞれの移行措置の内容を理解している。

文部科学省から保護者の皆さんへのお知らせ

平成21年4月から 新しい中学校学習指導要領が先行実施されます

- 文部科学省では、平成20年3月に中学校学習指導要領の改訂を行いました。今回の改訂では、子どもたちに「生きる力」をはぐくむため、授業時数を増加するとともに、言語活動や理数教育、外国語教育、道徳教育などを充実しています。
- 新学習指導要領の全面的な実施は平成24年度からですが、平成21年度から数学、理科を中心に新しい内容を一部先行して学習します。

平成21年4月からの主な変更点

● 授業時数が増加します

・数学(1年)、理科(3年)の授業時数が増加します

→授業時数増加

| 授業時数が 増加する教科 | 1年生 | | 2年生 | | 3年生 | |
|-----------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | H20 | H21 | H20 | H21 | H20 | H21 |
| 数学 | 3 | 4 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| 理科 | 3 | 3 | 3 | 3 | 2.3 | 3 |

※数字は1週間当たりのコマ数 ※実際の授業時数や時間割は、この時数をもとにそれぞれの学校で決められています。

● 数学(1年生)、理科(1・3年生)に新しい内容が加わります

| 新しい内容の例 | 1年生 | 2年生 | 3年生 |
|---------|---|-----|--|
| 数学 | <ul style="list-style-type: none"> ・球の表面積($S=4\pi r^2$)と体積($V=\frac{4}{3}\pi r^3$) ・代表値などを用いた資料の傾向の説明 | — | — |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ・かとばねの伸び ・PEやPETなどのプラスチックの性質 ・シダ植物やコケ植物 | — | <ul style="list-style-type: none"> ・水溶液とイオン ・遺伝の規則性と遺伝子 ・月の運動と見え方 |

・新しい内容を学習するため、1年生と3年生の生徒に教科書会社が作成した「補助教材」(冊子)が配布されます。(下は3年生理科の各教科書準拠の補助教材と目次例)



教科書 理科1分冊下 の目次

● 補助教材の使い方

15 運動とエネルギー
レーシングカーの速さ比べ
1章 運動と力
2章 エネルギー

☆平成22年度からは、数学(3年生)、理科(2年生)についても、授業時数が増加し、新しい内容が加わります
※さらに詳しい情報は「新しい学習指導要領」ホームページ(文部科学省トップページ>トピックス)をご覧ください

「心を育む」ための提案

文部科学省では、「心を育む」取組として次のような提案を推進しています。

子どもたちに学習習慣・生活習慣を身に付けさせるため、各御家庭での取組をお願いします。

- 「読み書きそろばん・外遊び」を推進する。
～「早寝早起き朝ごはん」と共に、生きる基礎を養う活動を積極的に行おう!～
- 家庭で、生活の基本的ルールをつくる。
～家庭は全ての教育の出発点。携帯電話の使い方など、家庭で基本的なルールづくりを行おう!～



【分析結果と根拠理由】

新学習指導要領への移行は小学校が平成 2 2 年度まで、中学校が平成 2 3 年度までとなっており、その後完全実施となる。

研究活動は本校の使命の重要な柱であり、学校をあげて全力で推進している。本年度から新たにスタートした「思考力・判断力・表現力の育成」テーマは、新学習指導要領の柱であり、時宜をえたものとなっており、県内中学校はもとより、県外からも研究発表会の後に視察があるなど、一定の評価を得ている。

各教科の指導助言には、鳴門教育大学の教員に協力・支援いただいているが、次年度以降大学の授業時数確保の観点から、平常日における出張はできないとされており、中学校としては週休日は部活動等で参会者が参加出来ない指摘されていることもあり、課題の一つとして浮上している。

観点3-2 研究活動の充実：研究活動拠点への取組ができているか。

国立大学法人としての附属学校の在り方が問われている中、本校では地域のモデル校としての取組をより一層強化していく必要があるとの認識に立っている。そこで、従来にも増して各種研究会の会場提供等の積極的な誘致を図っている。本校は伝統的に県内校長会はもとより、教頭会、中学校教育研究会等の組織と密接な関係を保ち、常に地域の教育界との協力関係が構築できている。このことは、他県によっては公立学校との関係構築に苦慮しているところが多い中で、全国的にも誇ることのできる状況である。(資料3-2-①)

資料3-2-① 「中社研における活動」

①県中学校社会科教育研究委員会において

立岩が歴史分野、仁木が公民分野の分野長を務め、研究内容の企画立案にあたる

・研究会開催 [第1回(5/14) 第2回(12/8) 第3回(2/9)]

・板野郡中教研社会科部会において(5/13 於：藍住東中学校)

立岩・仁木が参加し、統一大会の企画立案にあたる

・徳島市統一大会発表原稿検討会(7/27 於：入田中学校)

立岩が参加し、模擬発表検討会で指導助言

・中社研一日研修会(統一大会準備会)(8/10 於：教育会館)

立岩は指導助言者として、仁木は分野長として、授業および発表原稿の検討に参加

・授業研究会

歴史分野 [第1回(5/29) 第2回(10/16) 於：北島中学校]

公民分野 [第1回(6/12) 第2回(10/19) 於：松茂中学校]

立岩・仁木が、統一大会授業者の研究授業の参観及び授業研究会での指導

②徳島市合同主任社会 社会科部会(5/14 於：城東中学校)

立岩(歴史的分野)・仁木(公民的分野)が新学習指導要領改訂の要点を解説

③第27回徳島県中学校社会科教育研究大会(板野大会)(10/27 於：板野中学校)

立岩が歴史的分野の「指導助言者」を担当

仁木が公民的分野の運営等を担当

④社会選考選考会(10/28 於：教育会館)

立岩が選考委員として参加し、「講評」を取りまとめ

⑤第42回全国中学校社会科教育研究大会(宮崎大会)(11/19~20 於：宮崎県)

仁木が参加し、県の研究委員会において報告

⑥名西郡部中学校社会部会の授業研究会(11/30 於：神山中学校)

立岩が「講師」で参加、授業研究会での指導助言と、研究の方向性を説明

【分析結果と根拠理由】

徳島県中学校教育研究会幹事を務めるものが、音楽と体育の2名がいる。また、各教科研究委員会の事務局も多数本校が担っており、美術科、技術・家庭科等は常に本校を研究会場・会議場所として実施しており、地域の拠点校・モデル校としての位置づけは強固なものになっている。

また、四国大会以上の研究会では、必ず本校教員が研究推進役となるなど、県下教育界への貢献度は高いものがある。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 本校を県下の研究活動拠点とする取組は着々と進んでいる。
- ・ 教職員の学校運営参画意識が高く、附属校の位置の自覚、将来ビジョンが共有できている。

【改善を要する点】

- ・ 地域のモデル校的な役割を果たすことが、附属の生き残り策となっていることは時代の趨勢ではあるが、その分教職員の負担は増大しており、大学による人的バックアップが喫緊の課題である。
- ・ 近年、国、社会一般から、大学と附属が一体となった研究推進が求められており、研究主題の設定段階から、大学と附属の緊密な連携が必要となっている。
- ・ その際、附属は義務教育の一端を担っている学校であることも十二分に考慮し、一方的な大学のみへの押しつけとなつては、研究の意味そのものが危うくなることに注意する必要がある。
- ・ 徳島県との交流協定に基づく人事異動で優秀な教員の獲得とともに、核となる教員の比較的長期にわたる継続勤務が困難な状況もあり、協定そのものの深化と見直し、改定が急務である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

評価項目 4 その他

本項目は、年度当初の評価項目としては設定していなかったが、年度途中からその必要性が生じたので、「その他」として自己評価することとした。

(1) 観点の分析

観点 4-1 学校運営の工夫改善：徳島県との交流協定はスムーズに運営できているか。

【観点到係る状況】

本校の場合は管区担当がないので、従来より県教委教職員課主幹と本部付きの統括管理主事（義務担当）との面接により、意見交換している。また、管区別校長会には徳島市・名東郡管区に所属・出席しており、人事関係の情報は円滑に共有できている。

しかし、今後、校長の異動が伴う場合などの附属学校部長の役割の明確化、関わり方等、大学当局の附属学校管理職教員の人事異動に関する連携の在り方が喫緊の検討課題となっている。

さらには、例えば一身上の都合で公立学校へ異動することなく本校を退職する場合の退職金の取扱いについて県教委と取り決めが出来ていない、あるいは認識に大きな差があることが明らかになるなど大きな問題も残されている。

このようなことは、県教委側からみれば交流教員への説明がしにくく、一種の不信感を醸成しかねない要因となっており、優秀な人材確保の観点から早急な改善が望まれる。

また、県との交流とはいえ、異動の実際は各市町村教育委員会とも密接に関連している問題を大学当局としても認識しながらその運用改善に努める必要がある。

【分析結果と根拠理由】

大学と県教育委員会の間で人事交流協定が締結されており連携は概ね順調に進んでいる。また、協定では異動期間がおおよそ5年とされているが、現在のところ県教委も附属の特色に理解を示しながら弾力的に運用いただいている。

校内的には、職員の人事異動については、校長は常に附属学校部長との意見交換、情報の共有等が校長の職務として規定されて運用されている。

しかしながら、非常勤職員の雇用方法については、まだ細部を詰める課題が多いと感じている。

観点4-2 学校運営の工夫改善：大学教員の授業支援ができているか。

【観点に係る状況】

本校では、大学附属の特性と本校生徒相互の特性を生かし、2・3学年の選択教科において大学教員による授業が実施できている。

2年の理科は通年、2年の技術・家庭科は前期、3年は国語科で後期に実施されている。

(資料4-2-①)

資料4-2-① 「平成21年度 大学教員派遣授業の実績」(予定を含む)

| 教科 | 教員名 | 指導学年 | 前・後期 通年の別 | 選択・必修 の別 | 指導内容 (指導時間) |
|-----|-------|------|--------------|-------------|--|
| 理科 | 米澤 義彦 | 2年 | 通年 | 選択 | 環境(水質)調査の方法についての指導(2) |
| 技・家 | 宮下 晃一 | 2年 | 前期 | 選択 | ロボットの機構について(2) |
| 技・家 | 宮下 晃一 | 2年 | 前期 | 選択 | ロボットのルール説明と対策について(2) |
| 技・家 | 宮下 晃一 | 2年 | 前期 | 選択 | 製作上の注意点や工具の使い方について(2) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 絵本を使った読み聞かせを行い、絵本の工夫などに関する講義を行う。また、発声法などの習得を目的とした実技指導も実施する。(4) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 絵本の読み聞かせのための実技指導(8) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 絵本の絵に関する工夫についての講義(4) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 絵本がもたらした実際の効果についての講義(2) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 詩の朗読を通しての発声法に関する実技指導(4) |
| 国語 | 余郷 裕次 | 3年 | 後期 | 選択 | 今後の予定(6) |

【分析結果と根拠理由】

第一期中期目標・中期計画に基づき計画的に実施している。

特に、興味・関心による選択教科は学習意欲も高く発展的な学習内容による大学教員の専門性が本校生徒の高い評価となっている。

観点4-3 人材確保と人材育成：大学・附属・徳島県教育委員会との連携ができていますか。

【観点到係る状況】

昨年度から主幹教諭が配置されるとともに、その職に対する補充教員も新たに配置されている。また、平成19年12月の教育研究評議会で校長専任制が導入され、そのことに合わせて新たに附属学校部長が配置されるなど、学校運営上人材配置は改善されている。

しかしながら、教員系非常勤職員の時間給与は今だ公立学校の半額程度となっていること等待遇面の改善が望まれる。

また、教員系非常勤職員の雇用契約の手続き及び校長の権限が不明確であり、窓口、担当役員等がわかりにくく、雇用主としての学長との意見調整、手続き調整で混乱しているのが実情である。

さらに、本校教職員は法人化後の労働基準法下での非公務員型という労働者としての意識改革に心情的について行きがたく思っているのが実情であり、今後大学と連携しながら、この点の研修も重要事項となっている。

【分析結果と根拠理由】

学校教育法、労働基準法及び大学の規定等に基づき、徳島県との人事交流協定に対応しながら実施している。

(2) 優れた点及び改善を要する点

【優れた点】

- ・ 全国に先駆け校長専任制が実施されるとともに、教頭の配置、主幹教諭の配置もなされ、主幹教諭の補完的な人事配置もできている。
- ・ 交流協定が締結されているので管区別教育長会及び管区別校長会において配布される県教育委員会の指示・連絡事項の中に、附属学校との人事交流希望者の推薦が明記されている。
- ・ 県教育委員会との人事交流協定では、概ね5年とされているが、校長の希望により弾力的な運用がなされている。
- ・ 大学教員の派遣による授業は教科数は少ないものの大学教員の協力の下実施されており、生徒の評価も高く非常に有用である。

【改善を要する点】

- ・ 大学と県教委との認識のずれも見られることから、一層の連携、意思疎通の強化に積極的に取り組む必要がある。
- ・ 県との人事交流協定を見直し、早急によりきめ細かな内容に改善する必要がある。
- ・ 優秀な人材確保の観点から、長期的な展望を持ち、正規教員、非正規教員を問わず大学独自の人材発掘と育生、採用等、抜本的な改革を進める必要がある。
- ・ 大学教員の派遣授業は、様々な制約はあるものの実施教科数を拡大する方向が望ましいが、教育課程の変更（新学習指導要領上は選択教科は課程外の扱いとなる）による時数設定が今後の大きな課題である。

(3) 評価項目の達成及び取組状況の自己評価

以上の内容を総合し、4段階評価中の「C 取り組まれているが成果が十分でない」と判断する。

Ⅲ 自己評価根拠資料一覧

| | 観点番号 | 資料番号 | 添付 | 別添 | 資 料 名 |
|----|------|-------|----|----|--------------------------|
| 1 | 1-1 | 1-1-① | ○ | | 「日本一周読書の旅」プロジェクト |
| 2 | 1-1 | 1-1-② | ○ | | 本校のホームページ |
| 3 | 1-1 | 1-1-③ | ○ | | 本校のホームページ |
| 4 | 1-1 | 1-1-④ | ○ | | 本校のホームページ |
| 5 | 1-2 | 1-2-① | ○ | | 各教科受賞記録等（国語科） |
| 6 | 1-2 | 1-2-② | ○ | | 各教科受賞記録等（数学科） |
| 7 | 1-2 | 1-2-③ | ○ | | 各教科受賞記録等（社会科） |
| 8 | 1-2 | 1-2-④ | ○ | | 各教科受賞記録等（理科） |
| 9 | 1-2 | 1-2-⑤ | ○ | | 各教科受賞記録等（英語科） |
| 10 | 1-2 | 1-2-⑥ | ○ | | 各教科受賞記録等（音楽科） |
| 11 | 1-2 | 1-2-⑦ | ○ | | 各教科受賞記録等（美術科） |
| 12 | 1-2 | 1-2-⑧ | ○ | | 各教科受賞記録等（体育科） |
| 13 | 1-2 | 1-2-⑨ | ○ | | 各教科受賞記録等（技術・家庭科） |
| 14 | 1-2 | 1-2-⑩ | ○ | | 進路状況（平成22年2月15日現在） |
| 15 | 2-1 | 2-1-① | ○ | | 揮毫式 |
| 16 | 2-1 | 2-1-② | ○ | | 灯（ともしび）の儀 |
| 17 | 2-1 | 2-1-③ | ○ | | 特色ある取組「総合的な学習の時間」模擬県議会 |
| 18 | 2-2 | 2-2-① | ○ | | 平成21年度LFT（ライブ附中タイム）実施要領 |
| 19 | 2-2 | 2-2-② | ○ | | 同上 実施実績 |
| 20 | 2-3 | 2-3-① | ○ | | 学年不登校生徒の男女別数 |
| 21 | 3-1 | 3-1-① | ○ | | 「文部科学省 Web ページ」 |
| 22 | 3-1 | 3-1-② | ○ | | 同上 「新しい中学校学習指導要領が先行実施」 |
| 23 | 3-1 | 3-1-③ | ○ | | 「第53回研究発表会・理論編プレゼン抜粋」 |
| 24 | 3-2 | 3-2-① | ○ | | 「中社研における活動」 |
| 25 | 4-2 | 4-2-① | ○ | | 「平成21年度大学教員派遣授業の実績」（予定誌） |
| | | | | | |